

- アメリカ初の自然食品店「EREWON / エレホン」の開設
- 「自然食」という日本語を「Natural Food / ナチュラルフード」と英訳して活動

～久司道夫著「10代からのマクロビオティックス」より抜粋～

日本の伝統的な食事など見たことも聞いたこともないアメリカの人々が、私が推進する自然食運動や、クシマクロビオティックスのメニューを理解できないのは当然です。しかし、私の活動を理解してくれる多くの方々の協力によって、ニューヨークに自然食を提供するレストランや、自然食品を取り扱う食品店を出店することができました。しかし、当時はまだ自然食やオーガニックという言葉はありませんでした。

1960年代後半には活動拠点をボストンに移し、さらにマクロビオティックスの考え方を広めていきました。そのため、教育・啓蒙機関としてイーストウエストインスティテュートやクシインスティテュートをつくりました。面白いことに、興味を示してくれたのは「自然」に関心が高いヒッピーの若者たちでした。自然なままに生きようという彼らのライフスタイルと、マクロビオティックスが提唱する自然食の考え方が、ぴったり一致したのです。

「EREWON / エレホン」というアメリカ最初の自然食会社をつくり、自然食（Natural Food / ナチュラルフード）という言葉を使い始めたのも私と妻でした。

その後、さまざまな困難はありましたが、数十年の歳月をかけて、徐々にマクロビオティックスと自然食は全米へと広がっていきました。

私の学院には、ヨーロッパからも、オーストラリアからも、南米からも若者たちが集まり、彼らを通じて世界各地に広がっていきました